

町内会等での役員の 成り手不足への対策について

市などから町内会に推薦依頼する委員の 見直しと、町内会加入率を増やす取組を

町内会等の加入者が減り、高齢になっても仕事をしている人が増える中、町内会の役員が次の役員を決めるのに苦労しており、市などから町内会に依頼される委員を探すのはもっと大変だという話を耳にします。社会情勢に合わせ、活動や定員の見直しが必要です。

人口変動を見てみると、転出と転入ほぼ同数です。転入者の町内会等への加入によって、役員を選ぶ際の選択肢がもっと増えるのではないかと思います。移住してきて様々なボランティア活動に積極的に参加している方が多くいます。町内会等への加入を促進し、多くの人の力を地域づくりに生かしていくことも考えましょう。



水道管の老朽化対策と、地震等で の破損への対応について

古い配水管の更新を急ぐとともに、 災害時の水源の確保を

八潮市の陥没事故の後、各地で水道管や下水道管の破損に起因する事故が多発しています。南房総市の一部を含めた三芳水道企業団の給水区域全域では、令和5年度末で配水管延長約410キロメートルのうち、耐用年数を経過した配水管が約236キロメートルで、更新が完了している管は約174キロメートルです。このうち耐震管は22キロメートルで、耐震適合率は5.3パーセントとのことです。令和7年度の更新計画では、耐用年数を経過した老朽管や石綿セメント管を耐震管に更新する工事を、約1.4キロメートル実施する予定だそうです。国や県は、水道管更新のための補助を検討するので、うまく活用して、更新のスピードを速めて欲しいと考えます。

地震などにより、南房総広域水道企業団からの受水が困難になった場合の水源についても考えておく必要があります。千葉県との協力を得て作名、山本、増間の各浄水場から給水車による応急給水を行い、断水・減水が長期間となる場合は、海上自衛隊や海上保安庁の船舶を活用した海路からの給水を受けられるよう要請することになっているそうです。

地域ごとに井戸マップを作り、災害時には使わせてもらえるよう地域で話し合っておくことも、いざという時役に立つと考えます。

令和7年度主な補正予算

障害自立支援給付事業……………16億2,166万円
介護保険特別会計繰出金……………11億2,712万円
生活保護事業……………10億3,000万円
安房郡広域市町村圏
事務組合常備消防費負担金……………9億8,136万円
私立幼稚園運営支援事業……………6億7,765万円

児童手当費……………6億4,182万円
学校再編施設改修事業……………4億8,887万円
下水道事業会計負担費……………3億8,824万円
ふるさと納税推進事業……………2億9,005万円
三芳水道企業団負担金……………2億4,747万円
後期高齢者医療特別会計繰出金……………2億3,704万円



市民の生活を支えるためにどうしても必要な事業です。基金(市の貯金)の合計は11億9千万円減少して、38億7千万円となる見込みです。厳しい財政状況の中ですが、暮らしやすいまちづくりのための工夫を考えていかなければなりません。

中軽度心身障害者医療費給付制度の見直し、 児童デイサービス利用者負担額助成事業廃止について

中軽度の障害者の医療費給付を見直し、児童デイサービス利用者負担額助成を廃止することになりました。非課税世帯への給付はこれまで通り行われます。

この間、国による障害者支援が充実してきました。今後は基幹相談支援センターを設置し、困難な状況にある人を適切な支援に結び付ける仕組みを作っていきます。

おわりに



令和の米騒動が起き、米の価格高騰が続いています。国の政策によって減反が進められて、米の耕作面積が減り、農家も激減しています。ここに気候変動による不作が加われば、更に米不足に陥る可能性もあります。食料自給率はカロリーベースで38%とされていますが、輸入している家畜飼料や

肥料を計算に入れば、もっと低くなり、不安定な世界情勢の中で輸入が止まれば、日本人は飢えることになるかと警鐘を鳴らす学者もいます。

温暖で三毛作もできる館山の農地も耕作放棄が進んでいます。この問題について真剣に向き合っていきたいと思います。

